

TANIGO

丹後普及センターだより

発行 平成19年3月

〒627-8570

京都府京丹後市峰山町丹波855

京都府峰山総合庁舎内

京都府丹後農業改良普及センター

電話0772-62-4308

FAX0772-62-5894

<http://www.pref.kyoto.jp/tango/no-tango-nokai/index.html>

第6号



丹後コシヒカリの里づくり推進事業

丹後では、約3,600haの水稲の作付があり、その9割はコシヒカリです。

平成15、16年度には(財)日本穀物検定協会の食味ランキングで「特A」評価を得ており、丹後地域は高品質良食味米の産地です。

しかし、販売農家戸数は約4,000戸ですがこの10年間に5.2%減少し、65歳以上の高齢化率は69%となり、生産基盤は弱体化しています。

このため、管内の集落営農組織の利点を活かし「丹後コシヒカリの里づくり推進事業」により集落単位での低コスト生産体制の導入、有利販売と特産物等の加工販売対策を生産者の皆さんと共に取り組んでいきます。

平成18年度に開催の集落営農講座には22集落から受講があり集落ビジョンを作成しました。

19年度から2カ年間に開催する集落営農実践講座において、集落リーダーらの地域経営管理能力と経営革新力を高めていきます。

講座では経営類型を水稻を基本として、京野菜、一般野菜・花・果樹、豆類等の土地利用型作物、直売・加工の4タイプに分けモデル集落を設定します。

これらの集落には専門家からの個別指導や府各種補助施策等を導入して集落ビジョンの早期実現を図るとともに、丹後コシヒカリの産地強化につなげていきます。

～知ろう、守ろう、考えよう、みんなの人権～

特 集

実用化を目指した展示活動等の成果

普及センターでは、丹後地域の主要品目を中心に収量や品質の向上、丹後地域に適合した有望な品種の選定などをテーマに、先導的な農家のご協力を得て、実用化にむけた展示・実証活動を展開しています。本年は、水稻部門、京野菜部門、お茶などで実施し、その成果をまとめましたので、その中からいくつかを紹介します。今回ご紹介できなかったものには、「盆に安定して開花する京都府育成のコギク新品種試験」、「小豆の省力機械化栽培体系の確立」、「アシタバ生産安定技術の確立」、「ケイトウの直は栽培技術の確立」などがあります。

■水稻展示・実証ほ

普及センターでは、作柄を調査する「作況ほ」と新技術の効果を現地で確認する「実証ほ」を農家の方々のご協力を頂き取り組んでいます。今回は、18年産米の作柄と「疎植栽培」の実証結果の概要について報告します。

(1) 作況ほ結果

作況ほは管内旧市町単位に11箇所設置し、過去5年間の平均値（「平年」とする）と比較しています。

【18年産作況ほの作柄傾向】

- ア 田植え最盛期は5月中旬でした。5月は日照不足となり、活着や初期生育が緩慢となりました。
- イ 日照不足は7月まで続いたことから、分けつは抑制され、茎数は平年に比べて減少（89%）しました。
- ウ 出穂は平年に比べ約1日遅くなりました。
- エ 穂数は茎数が少なくなったことから平年に比べ減少（87%）しました。1穂籾数は平年に比べてほぼ同等（101%）でした。
- オ 籾数は穂数が少なくなったことから減少しました。登熟歩合は高く（108%）になりましたが、10aあたり収量は平年に比べて少なく（93%）になりました。
- カ 品質は、11箇所中8箇所が1等米の品質となりました。

(2) 疎植栽培実証結果

疎植栽培は、条間（30cm）はそのままだが、株間を一般標準（概ね18cm）よりも広く植える栽培方法です。必要な苗箱数が少なく済み、収量は変わらない上、品質もやや向上するといわれています。

今回、株間18cmを標準に、疎植田植機を使用して21cm、28cmの疎植栽培の収量調査を行いました。

（データ）

- ◇土改材：シカカ80kg/10a
- ◇代かき：5月15日
- ◇田植日：5月17日
（18cm区は5月18日）

植え付け間隔	肥料(10a)	苗箱数(10a)	実収(kg)
18 cm	LPSSJ1号 45kg	19箱	438
21 cm	" 44kg	12箱	458
28 cm	" 44kg	10箱	440

（実証地：宮津市）

（試算）

- ◇玄米単価：7,250円/30kg
- ◇苗箱代：730円/箱

※収支は玄米単価と苗箱代のみで試算

	収入	苗箱経費
18 cm	105,850円	13,870円
28 cm	106,333円	7,300円

（実証地：宮津市）

（まとめ）

- 疎植の収量は標準的な栽培とほぼ同等の結果となりました。お勧めできる栽培方法といえますが、
- ①ほ場条件（山間部の水の冷たいところ、やせている田など）により向き不向きがあること、
 - ②欠株が明らかに多い場合は収量に影響すること、③21cm以上の疎植は専用の田植え機や部品交換が必要な場合がある、等に留意する必要があります。

■茶のさし木育苗

茶はさし木で苗を増殖します。

さしつけた後たっぷりとかん水し、熱線反射フィルム（商品名：ピアレスフィルム）で外気を遮断する省力的な方法を試みました。

2カ月後フィルムを除去すると、発根率は84%となり、ほぼ満足できる結果が得られました。



■みず菜の株張り改善

みず菜は京野菜の牽引役として着実に生産量を伸ばしていますが、全国的に栽培されるようになり、より一層の品質向上が重要となっています。

夏場の伸びすぎを抑え株張りを良くするため、栽植密度を変え栽培を行い検討しました。

疎植にすることで、株重・葉数が増加する品質改善の効果が認められました。

注意としては、あまり疎植にすると収量が低下しますので、は種時にはたっぷりかん水して出芽を揃え、子葉

展開後はかん水を葉水程度に抑えるなど、水管理で生育をコントロールしてやるのが大切です。



表 栽植密度の違いによる収量・袋入り株数

区	株間 条間		収量	袋入り株数	入り株数の範囲(株)	
	(cm)	(cm)				
慣行(67株/m ²)	7	16	7	100	100	8~15
57株/m ²	7	18	6	87	104	8~17
47株/m ²	10	16	7	82	86	7~12
40株/m ²	10	18	6	81	74	6~12

※収量・袋入り株数は、慣行区を100とした場合の割合

丹後地域の動き

食育支援 小学5年生が稲刈りを体験

京丹後市立大宮第一小学校5年生103名がアグリ大宮（大宮町認定農業者経営者会議）や



普及センター等の支援を受け、稲刈り体験を行い「働くことや食の大切さ」を学びました。

また、餅つきやしめ縄を体験し、収穫物に感謝する心を育みました。



丹後直売所セミナー受講者が各地で活躍

与謝野町の女性グループ「さみどり会」は、府内で初めて、国道312号水戸谷峠の府有財産（ロードパーク）を活用して、10月から朝市第2店舗を開設。また、11月には、JA京都峰山支店駐車場で、直売グループが、共同マーケットを開催。丹後の農産物や鮮魚、乳製品などを販売し、観光客等1,000人近い人でにぎわいました。

今後とも、セミナーの開催や、個別組織の支援を実施し、丹後の直売所の拡大とネットワーク活動ができるよう支援します。



空き家案内と作業体験を実施

伊根町筒川むらづくり委員会が主催する「稲刈り作業体験&空き家案内」を支援しました。

委員会は、都市からの参加者3組と交流し日当たり、修繕・管理具合などの空き家情報と受け入れのための申し合わせ事項を整備しました。

今後は定住したい人や就農したい人との接触を強め、地元全域が活性化するように支援していきます。



新しい農業士さんが認定されました

農業士は京都府知事が認定した地域農業のリーダーです。地域農業の活性化や後継者育成など地域の発展のため、共に頑張りましょう。

■指導農業士：

野村 拓也さん（京丹後市網野町）
城下 佳郎さん（京丹後市網野町）
梅本 修さん（京丹後市弥栄町）
日下部啓作さん（京丹後市久美浜町）

■青年農業士：

野村 拓生さん（京丹後市久美浜町）

退任される農業士さん お疲れさまでした

長年、地域リーダーとしてご活躍いただき、大変お世話になりました。皆さんの活動のおかげで、農業者の社会的地位の向上や農村地域の発展を図ることができました。今後ともご支援をお願いします。

■指導農業士：

吉田啓治郎さん（宮津市）
立野 定さん（京丹後市網野町）
井上 晴夫さん（京丹後市網野町）
坪倉 幸治さん（京丹後市弥栄町）
家城 啓治さん（京丹後市久美浜町）
西川 誠司さん（与謝野町）

■青年農業士：

牧野 弘明さん（京丹後市久美浜町）